



研究者名※	伊村 知子	学位※	博士(心理学)
所属※	人間社会学部 心理学科	職名※	准教授
連絡先	imurat@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/imuratomoko		
研究分野※	実験心理学・認知科学		
研究キーワード※	比較認知心理学、感覚・知覚・感性、進化・発達		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「感性的質感知覚の発達と進化」(科学研究費・基盤B・研究代表者、2021年～2023年) ・「概要認知のメカニズム:発達と進化的基盤」(科学研究費・基盤B・研究代表者、2018年～2020年) ・「チンパンジーとヒト幼児における物理的・感性的質感知覚」(科学研究費・新学術領域研究(研究領域提案型)・研究代表者、2018年～2019年) ・「拡張現実(AR)技術による映像提示が子どもの行動に及ぼす影響」(科学研究費・挑戦的研究(萌芽)・研究分担者、2017年～2019年) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・TTC labs (Trust, Transparency and Control Labs)主催「ウェアラブルARデバイスをめぐる課題と対応策についてのワークショップ」・招待参加(2021年) ・杉並区立小中学校教員研修・講師(2019年) 		
受賞歴	・日本心理学会国際賞奨励賞(2019年)		

研究領域	比較認知心理学・感性・進化・発達	(SDGs)	
研究テーマ※	質感知覚の適応的意義と進化・発達		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 人間の目や脳は、光沢感や素材の違いなどの物体の質感を瞬時に感じとる能力を備えています。近年、認知科学や脳神経科学の研究から、人間が「どのように」質感を知覚しているのか、質感知覚のメカニズムが明らかになってきましたが、「なぜ」質感を知覚するように進化してきたのか、その適応的意義はわかっていません。私たちは、光沢感や素材を識別する能力が発達や進化の過程でどのように出現するかに着目し、それらの能力が乳児期の早期から出現して児童期にかけて徐々に発達することや、人間に最も近縁な動物であるチンパンジーも、人間と同じように、光沢感から野菜や果物の新鮮さを判別していることを明らかにしてきました。</p> <p>【応用例、研究の展望】 物体の質感は、物体の扱い方(アフォーダンス)や、好き嫌いといった感情と関連するものであり、人間の行動選択の鍵となる情報を含んでいます。今後は、質感を感じとる能力の発達や個人差、種を超えた普遍性を明らかにすることにより、乳幼児の玩具や遊具等のデザインや、動物園等で飼育されているチンパンジーの飼育環境の改善にも貢献することが期待されます。</p> <p>【研究方法の特色】 認知科学と進化心理学的枠組みの融合により、人間の知覚メカニズムが、生存や繁殖上どのような機能として働いているのかを明らかにしようとする点、人間の知覚について、生物学的な基盤と人間に固有の質感知覚の社会的・文化的基盤の双方から理解しようとする点が特色としてあげられます。</p>		
本研究関連特許・論文等	・Imura, T., Masuda, T., Wada, Y., Tomonaga, M., & Okajima, K. (2016). Chimpanzees can visually perceive differences in the freshness of foods. Scientific reports, 6(1), 1-9.		
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学霊長類研究所 ・新潟大学 ・豊橋技術科学大学 		